

報道関係者各位



【見どころ紹介】今回の展覧会はここがポイント！

- ◆ 吹くだけではない！ 作家たちの情熱によって**多様化していくガラス技術**に注目。
- ◆ 作品に込められた想いとは？ 作品1つ1つに込められた作家たちの**詩情豊かな世界観**を紹介。
- ◆ 同時開催「ヴェネチアン・ガラスの四季」では、**春夏秋冬をテーマに15～20世紀の作品を紹介**。移りゆく箱根の四季とともに楽しめる。現代ガラス作品と比べてみると、新たな発見も。
- ◆ ご自身のスマートフォンで聴くことができる**無料の音声ガイド**を今年もご用意。当館所蔵のヴェネチアン・ガラスと、企画展示の現代ガラス作品への造詣が深まります。

【概 略】

約4000年前に生み出されて以来、人々を魅了し続ける人工の素材、ガラス。20世紀に入ると、ガラスは、装飾品や工芸の分野だけではなく、芸術表現の分野でも新たな可能性を秘めた素材として注目を集め、芸術家自身がデザインから制作までを一貫して手掛けたガラス・アートが誕生しました。本展では前期と後期に展示を分け、ガラス・アート界を牽引する国内外の現代作家6名のガラス作品をご紹介します。ガラスという千変万化する素材の魅力を存分に引き出し、工芸の分野に留まらない多様なガラス表現を模索するイタリアとアメリカ、そして日本のアーティストたちの個性が豊かに響き合う、ガラス・アートの世界をご覧ください。

【タイトル】～響き合う東西の美～ ガラス・アートの世界

【会 期】2022年4月29日(金) から2023年4月16日(日)まで

前期日程：4月29日(金)～9月25日(日)

後期日程：9月28日(水)～2023年4月16日(日)

午前10時～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)

※9/26～27は展示替えの為、一部閉室。2023年1月10日～1月20日休館。

【会 場】箱根ガラスの森美術館

【主 催】箱根ガラスの森美術館、毎日新聞社

【後 援】箱根町

【協 力】箱根 DMO(一般財団法人 箱根町観光協会)、小田急グループ

【入 館 料】一般1,800円 高大生1,300円 小中生600円(税込)

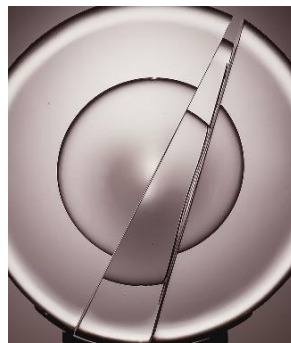
【前期展示】 4月29日（金）～9月25日（日） ～ガラスがつなげる内と外の世界～

前期の展示では、ガラスという媒体を通し、空間と作品そして自身の内面性をも調和させたリヴィオ セグーゾ、ガラスの本の装丁を通して、鑑賞者に本の内容を想像させる詩的な世界を展開する木下 良輔、そして「存在する」という概念への自身の問いに、ガラスという素材を用いた作品で回答を試みた内村 由紀によるガラス彫刻作品を紹介。

【展示予定作品】

リヴィオ セグーゾ（1930年～）

1940年代中頃、ムラーノ島のガラス職人たちの下でガラス製法の基礎を学び、1970年代末頃よりガラスを用いた純粋な形体表現を試みるようになる。以後、ガラスと金属、大理石、木材などの異素材を組み合わせた彫刻作品を手掛ける。



ヴェネチアン・グラスからガラス彫刻へ

吹き入れた空気は、ガラスの中に封じ込められたもう一つの空間。分断、再構築し、ガラスを通して見える空間を一つの造形作品に捉えなおした。

木下 良輔（1961年～）

電気炉を駆使し、建材用板ガラスを主材に造形作品を発表。金属イオン交換による着色変色するステイニング法を用いた作風で、基軸となるモチーフの多くを“本の形態”で表現し、〈内包するエネルギー〉を制作のテーマとしている。また、アンティークから現代まで時代を越えたガラス作品の復元・修復を手掛ける。



詩情豊かなムーンライブラリーシリーズ

月光のような装丁の本や、それを収める月の図書館などを制作するシリーズ。鑑賞者にその内容や世界を想像させる。

内村 由紀（1962年～2020年）

耐熱石膏で作った鋳型にガラスを詰めて焼成するキャストイング技法によるガラス作品を発表。探求してきたテーマは「存在する」という概念であり、作家自身が人の感情や物体、生命などあらゆるものが「存在する」ということに疑問を感じ、ガラスという素材で一つの回答（Exist～ただよううつわ～シリーズ）を導いた。



かつて存在した器の痕跡を表現

器の形をした空間は、焼成後の石膏をガラス内部から取り除いて表現、かつてそこに存在した器を想起させる。

【後期展示】 9月28日（水）～2023年4月16日（日） ～ガラス表現に見る日本～

後期の展示では、アメリカを代表するガラス作家、デイル チフーリが、日本の活け花からインスピレーションを受けた作品をはじめ、平安時代から続く日本の伝統技術「截金(きりかね)」とガラスを融着させた繊細な作品を制作する山本茜、そして、世界各地の制作活動から自らが東洋人であることを意識し、表面加工したガラスに花鳥画の世界を表現する山野宏の作品をご紹介します。

【展示予定作品】

デイル チフーリ (1941年～)

1967年、「スタジオ・グラス運動」の提唱者、ハーヴィー リトルトンに師事。更なるガラス技術を学ぶため、翌年、ヴェネチアに留学。歴史あるヴェネーニ工房でヴェネチアン・グラスの伝統に強い影響を受け、以後、色彩豊かで生命感のある独特の作品を多数制作する。



個性的な造形と色彩表現でガラス・アートを牽引

ヴェネチアの現代ガラス作家リノタリアピエトラと共作で、ホットワークテクニックと漆のような色彩表現による日本の「活け花」を表現した作品を手掛ける。

※撮影：飯島幸永

山本 茜 (1977年～)

独学で^{きりかね}截金を始め、伝統的截金技法を重要無形文化財「截金」保持者の江里佐代子氏に師事。極細に切断した金箔をガラスに貼り、ガラスに截金を浮かべたような透明感と繊細さのある作品を手掛ける。

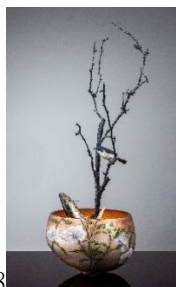
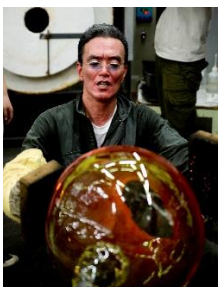


截金技法とガラスの融合

金箔、プラチナ箔を極細に裁断しガラスに封じ込めた截金文様は、研ぎ澄まされたガラスを通して万華鏡のように見える。

山野 宏 (1956年～)

海外各地で制作活動をする中で、自らが東洋人であることを意識し自身の作風を確立。作品には自身の生き方を重ね合した回遊魚が登場する。自然の中で感じられる静けさをガラスで表現した作品を手掛ける。



心の静けさをガラスで表現

吹きガラスで制作したガラスの器の表面に銀箔を熔着し、銅メッキを施す独自の表現加工と絵付けにより花鳥画の世界（作家の心象風景）を表現。

※山野宏氏は新規作品3点出品予定。

※出品作品や作家（順不同）は変更の可能性があります。

【展示予定作品リスト】

前期

1. DIFFRAZIONE 1986年 ヴェネチア リヴィオ セグーゾ 制作 箱根ガラスの森美術館所蔵
2. ムーンライブラリー 2015年 日本 木下良輔 制作 作家所蔵
3. ムーンライブラリー ～生(き)の連動～ 2010年 日本 木下良輔 制作 作家所蔵
4. Exist シリーズ ～記憶～ (左) 2018年 日本 内村由紀 制作 プライベートコレクション
Exist シリーズ ～回帰 to the ocean～ (右) 2018年 日本 内村由紀 制作 プライベートコレクション

後期

5. VENETIAN 1989年 U.S.A デイル チフーリ 制作 箱根ガラスの森美術館所蔵
6. IKEBANA 1997年 U.S.A デイル チフーリ 制作 箱根ガラスの森美術館所蔵
7. 「渦」 2020年 日本 山本茜 制作 プライベートコレクション 撮影：鍋島徳恭
8. Scene of Japan 日本 山野宏 制作 ※新作を展示予定

【お問い合わせ】

箱根ガラスの森美術館 広報担当：根本、柳井、中野

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 940-48 TEL0460-86-3111 Mail hakone-museum@ukai.co.jp